



同 一千八百七十八年七月廿七日出版
八月三日出版
シヤバンタイムス
新聞抄譯

内國公債論

大藏省
翻譯課

4236



414
A2428



大正十一年四月
隈後寄贈

吉田五十穂譯

七月廿七日出版ノ「ジャパンスタイムス」新聞ニ掲載シタル

投書

内國公債論

予謂ラク日本ハ這般内國債ヲ募集シ得タル所ノ成功ニ就テ傲
慢ノ氣ヲ有スルモ各々其道理アルナリ、本月十七日出版ノ「ガゼ
ット」新聞ニ此國債ハ其募集ヲ充分ニ成功スルヤ否ヤ怒テ失敗
スベシト論シタル惡口ハ今日ニ至リテ後悔スベキナリニシテ之
ヲ取テ深ク答ムルニ足ラス此ノ如キ批評ハ(一目シテ瞭然)不正
ニシテ且有害ノモノタルヲ論テ、**振**タザルナリ、予ハ貴社ノ新紙
中ニテ前頭ノ主意ニ就キ一二ノ意見ヲ開陳スルニ足ル可キ餘
白ヲ借ラシムルヲ要ス、

予ハ本月四日ノ「ジャパンスタイムス」新聞ノ論說英ニ「エコー」ジユ

ジャボン新聞ノ論説ハ云シキモノナリトス何如トナレハ是等
説ニハ此國債ノ釀金ハ日本政府ニ於テ其人民ノ忠義ト信批
トテ試験スルモノト看做サレザルヲ得ズト言フヲ以テナリ
此國債ノ募集ハ斯ノ如キ事ヲ試験スルモノト之ヲ看做ス時ハ
其成功ハ充テナリト謂フベシ如何シトナレバ實ニ恐懼スヘキ
内乱ノ鎮定セシ後日本ノ史乘ニ於テ始メテ斯ノ如キ重大ナル
試験ヲ為シ僅カニ箇月餘ノ時限ニ於テ國債ノ全額ヲ募集セラ
レシ上ニ尚ホ凡ソ一百五十萬兩ノ申込ミアリ而シテ今日ニ至
ルマテ尚ホ日々陸續トシテ申込ム者アレバナリ
諸縣ハ都府ヨリ隔絶セシ而已ナラズ通信モ亦不便ナルヲ考察
スレバ此國債ノ成功ハ甚タ満足スヘキモノト謂ハザルヲ得ズ
而シテ之ヲ募集スルノ方策ハ人民ニ於テハ新規ニシテ且珍奇
ナル事件ナリシヲ以テ諸有司ハ政府ニ於テ人民ノ信據ヲ得ル

前ニ其目的ヲ遠当ニ説明セザルヲ得ザルハ理ノ当然ニシテ又
之レガ為ニ多クノ時日ヲ費サザルヲ得ザリシ故ニ斯ク暫時ノ
間ニ此募集ノ成功セシハ更ニ驚クニ堪エタリ予思フニ英國ニ
於テ此一百年前ニ斯ク暫時ニシテ且斯クノ如キ事情ニ依テ二
百万磅ノ公債ヲ募集ストコトヲ得タルヤ否ヤ是レ甚タ疑フベキ
所ナリ
ガゼット新聞ニハ復々日本ニ於テ紙幣ハ人望ヲ得タト通債ヲ
ルコトト日本政府ハ之ヲ以テ道路鏡道等ノ如キ有益ナル工業ヲ
起シ以テ是等ノ工業若シ一般ノ陸験ハ何ニ限ラス其費用ヲ償
フ所ヨリ賄還スル所ノ利益ヲ以テ此國債ヲ償却スルコトヲ得ベ
ク又之ヲ以テ國家ノ實際ノ進歩ヲ助勢スベキコトヲ注目セス
テ這般ノ公債ヲ紙幣ノ公債ナリト非議シタリ若シ此公債ハ
歐洲ニ於テ金銀ノ地金ニテ募集マラレタリトモ其冀固シタル

工業ヲ成功マンガ為メ之レヲ紙幣ニ交換シテ配分セラル、ナ
 ン
 七月十三日出版ノ「マレスチヤル、エムパイヤ」通洋ニハ支那政府
 ニ於テ近來募集シタル外國公債ノ利子ハ一割三分ハ支ナリト
 記載、人、今若シ此公債ハカスカルノ土寇ヲ鎮壓スル為ニアラ
 バレテ公ケノ工業ヲ振興擴充スル為ニ之ヲ募集シタラシニハ
 之ヲ其企テタル目的ニ用ヰザル前ニ銅貨ニ交換サレタルナラ
 シ、抑モ銅貨ハ支那人民ノ貴重スル無二ノ通貨ナリ而シテ金銀
 ノ地金ハ獨リ銅貨ノ実價ニ越エテ四割乃至五割ノ同價ニ於テ
 銅貨ニ交換セラル、ナリ然ルニ日本ノ紙幣ハ之ヲ金銀ノ地金
 ニ交換スルハ倍ニ百分ノ五或ハ六ノ割引ニ過キズ
 若シ日本ハ「クウリ」是レハハナル具ニシテ古ヘ及テ用
ハカレモノ凡ソコノ「モ」ニ當ルノ通貨ヲ有レテ之ヲ以テ有益ナル公
ハカレモノ凡ソコノ「モ」ニ當ルノ通貨ヲ有レテ之ヲ以テ有益ナル公

ケノ工業ヲ成了シ得ルトモ國債ヲ募集スル方法ニ就テハ議論
 ラ立ルト甚ク鮮ナキモノ、如レ
 内國ノ新聞紙ニハ諸縣ニ於テ公債ノ募集ニ應シタキ金高ヲ記
 載シテ細密ナル申込ミノ表ヲ出版セ、此記載ハ這般ノ公債ヲ
 募集シタル所ノ信義ト人民ノ自由ニ任ジタルトトヲ表明スル
 ニ足ル而シテ土佐高知ノ如キ人心不満足ナル地方ニ於テハ其
 申込高僅カニ百兩ニ過キザルヲ看ル可シ
 預テ冀望シタルガ如ク高業ノ盛大ナル東京及大阪ノ二大都府
 ハ諸縣ノ債票共ニ財産ヲ蒐集スル処ナルヲ以テ公債金高ノ數
 モ大ナル部分ヲ引受タタリ
 是故ニ是等ノ事情ヲ悉ク考察スレバ則チ此公債ノ成功ニ依テ
 日本ハ將來確乎トシテ進歩シ以テ奉穩ニ開化ノ域ニ達スベキ
 ハ期シテ待ツベキナリ

千八百七十八年七月十六日横濱ニ於テ

オブメルブル

「ジャパン、ウエーキレ、エンド、タイムズ」ノ記者

御中

記者曰ク此投書家ノ論説ハ其事實ニ議論トモ全ク謬誤ナ
レヲ以テ許多ノ要件ニ至テハ勿論吾輩ノ意見ニ一致セザル
ニ依リ次ノ出版ニ於テ之ヲ辯駁スベシ

八月三日出版ノ「ジャパン、メール」新聞即チ「ジャパン、タイムズ」合併後ノ新聞名称ト知ルベシ

内國公債論

四月三十日ノ布告ハ今既ニ申込ノ終リタル内國公債ノ募集ヲ
命令セシモノニシテ五月四日ノ「ジャパン、タイムズ」新聞中ニ之
ヲ掲載シタリ然レ氏此ノ「要件」ニ於テ政府ノ會計上ノ困難
ヲ知ラザルヲ避ケンガ為ニ此處置ニ就テノ批評ハ其效果ヲ
目撃スルマデ之ヲ猶豫シタリ此公債ハ政府ヨリ強テ人民ニ迫
リ募集ノ奏効ヲ得タルガ如キヲ無カリシヲ以テ最初ヨリ異議
ナク民心ノ感應スル所ト成リタリ五月十一日ノ「ジャパン、メ
ール」新聞ニハ簡短ノ論説ヲ掲ケタル氏礦山開採ノ工業ヲ扶助ス
ル為メ公債ノ元金ヲ放置シテ生スル所ノ利益ヲ之ニ用フル事
一就テ異論ヲ立テシノ外、批評ヲ為スガ如キハ這般始メテ
内國債ヲ募ル試験ニ好機會ヲ与ヘシマル目的ヲ以テ敢テ論述

セザリレナリ、此公債ノ金額ハ主ケ月ニシテ悉ク申込ミアリシ
以テ今ヤ其形情ハ宜シク之ヲ記載スベク而シテ其安置ハ之
ヲ公卒ニ討論スヘキヲ適當ナリトス
吾輩ハ前週ニ登録シタル各ガ投書家ナルヲオブセルノ熱
中シタル投書ヲ沈黙シテ領収スル能ハズ之ニ就テ一二ノ論辯
ヲ費サバブルヲ得ス吾輩ハ現今一千四百万円ノ申込高ヲ決シテ
不相應ナル成功ナリト注目セル能ハス(投書家曰ク日大ハ此成
功ニ就テ傲慢ナル可キ道理ヲ有スト)若シ之ヲ黙々ニ附スルハ
ハ吾輩ノ職掌ニ於テ重大ノ失錯ト成ル可キナリ是故ニ吾輩ハ
勉メテ外國ノ看官ニ日本人ノ処置情願及ヒ其目的ヲ充分ニ説
明シ以テ海ノ内外ヲ向ハス現今ノ日本政府ヲ扶助スヘキ道理
ト情願トヲ有セリ然レモ若シ是等ノ謬誤ヲ明示スルヲ止メ実
際ノ事件ヲ正シク顯ハサズシテ無根ノ事ヲ記載レ或ハ何等ノ

議論ミナク同業記者又ハ投書家ヲシテ日本人ニ甚ク都合好キ
虚飾ヲ与ヘシムルハ則チ速カニ日本人ニ利益ヲ得セシムル
トヲ求メテ却テ日本政府ノ為ニ永久ノ害ヲ遺スルハ然ナリ而
シテ吾輩ハ世上ノ多事ナル十三ヶ年ノ間、公卒ト獨立トニ依テ
得タル所ノ名譽ヲ失フ月明白ナルヲ以テ是レ吾輩ニ於テ更ニ
緊要ナル事件ナリト謂ハザルヲ得ズ
日本政府ガ今回外國ノ市場ニ於テ貨幣ヲ借用セント望ムル
ヨリモ寧ロ内國債ヲ募集スルトヲ撰ミタル主意ハ實ニ讚美ス
ルニ甚エタリ吾輩ハ大蔵卿ガ信憑ヲ有スルト仮定スルト無ク
右ノ主意ハ下文ニ掲クルガ如キモノト定ムルモ恐クハ大ナル
謬誤ナカル可シト信ズ即チ日本人民ハ其政府ニ向テ信憑ヲ有
ルト及ヒ内國債ハ日本ニ於テ募集カレ得ルトテ字内ニ示ス
ヘキ情願、金貨ヲ以テ利子ヲ拂フベキ外國債ノ増加ヲ避ク可キ

懸慮、紙幣ノ額ヲ利子附ノ公債証券ニ更改スルハ自餘ノ紙
幣ノ價格ヲ騰貴スベシトノ希望、大藏卿ハ有益ナル公ケノ工業
ヲ起シ得ル人民ノ信憑ニ就テ已レヲ利ス可キ實モ正シキ方策
ニ恐テクハ(皇帝陛下ニ將來注目スベキ信憑ヲ与ル爲メ)向
後斯ル如ク建設採セラル可キ鐵道礦山其他有益ナル資産ヲ
抵当トシテ外國ノ金債ヲ借用セント欲スル目的オナリ、吾輩ハ
今ヤ是等ノ方策ハ何様ニ成功セラル、ヤ然レテ將來利
益ヲ得ベキ見込ハ豫メ辨別セラル、ヤ或ハ此方策ヲ再試スル
トテ條理適當ナリトス可キヤヲ考究セントス
吾輩ノ投書家ハ主張シテ曰ク政府ノ第一ノ目的ハ已ニ達セラ
レタリ人民ハ全ク政府ノ請求ニ應レタリ又今將ニ恐懼ス可キ
内乱ノ鎮定シタル後、僅カニヶ月餘ノ期限ニ於テ國債ハ其釀金
高ヨリモ過分ニ申込マレタリ又諸縣ハ都府ヨリ隔絶マレ而已

ナラス通信モ亦不便ナルヲ考察スレバ此結果ハ非常ニ満足ス
ヘキモノナリト而シテ又下文ノ如キ比較ヲナレテ曰ク「予思フ
ニ此一百年前ニ英國ニ於テ斯ク暫時ニシテ且此ノ如キ事情ニ
依テ二百万磅ノ公債ハ募集セラレ得タルヤ否ヤ是レ大ニ疑フ
可キ事ナリト
吾輩ハ爰ニ投書家ノ謬誤ヲ正スヲ以テ投書家ハ吾輩ニ向テ辯
解ヲ為ササル可ラス即チ第一ニハ這般ノ公債ヲ募集スル爲メ
ニ費シタル時間ハ僅カニヶ月餘ニアラズレテ三ヶ月以テナリ
キ第二ニハ一百万円以上ノ金額ハ東京大阪及ヒ京都ニ於テ
申込ミアリシモノニシテ即チ是ハ諸銀行、三菱會社、三井會社、
府ノ保護ヲ受ケタル諸會社等ヨリ各々巨額ヲ以テ申込ミタル
リ而シテ吾輩ハ内國ノ新聞中ニ時々記載セタルモノニ就テ
之ヲ知ル第三ニハ投書家が歴史ヲ引証セレハ不幸ナリト謂フ

可レ曰ク此一百年前ニ英國ニ於テ三月間ニ二百万磅ノ公債
募集セラレ得タルヤ否ヤ是レ大ニ疑フベキ事ナリト吾輩ハ
此疑ヲシテ忽チ氷解セシム可レ即チ一千七百九十六年十二月
五日ニ於テ千八百万磅ノ公債ハ僅カ十五時二十分間ニ全ク
募集セラレタルヲ知ラスヤ

此事実ハ蓋シ同様ノ例ハ為レ難シト公卒ニ抗論セラルハ、
アルベレ如何トナレバ此公債ノ金額ハ多分倫敦ノミニ之ヲ給
備シタレバナリ而シテ又一千七百九十六年ハ一百年前ニテハ
アラザリシト抗論セラルルハ有ルベシ然レモ所謂セケ年ノ戰
争(即チ一千七百五十六年ヨリ一千七百六十二年マデ)ノ期限及
ヒ亞米利加ノ獨立戦争(即チ一千七百七十六年ヨリ一千七百八
十四年マデ)ノ期限ハ全ク前頭ノ場合ニ適應セリ如何トシレバ
當時此公債ハ已ムヲ得ス之ヲ全國中ニ募ラザルヲ得ザリキ而

シテ此第一ノ期限ニ於テハキヤルリ候ハ尚ホ生存セシヲ以
テ其黨派ハ絶エスハノイブル家ニ對シテ隱謀ヲ企テタリ又斯
ノ如ク久シキ期限ノ間ニ年々八百万磅ヲ募集スルノ勤勞ハ之
ヲ三ヶ月間ニ二百万磅ノ一口ノ金額ヲ募集スルニ比スレバ一
大難事ナリト謂ハザルカ得ザレバナリ又尚ホ第一ノ期限(一千
七百五十五年ヨリ一千七百六十三年マデ)ニハ五千二百万磅ノ
公債ヲ募集シ然レテ第二ノ期限(一千七百七十六年ヨリ一千七
百八十四年マデ)ニハ七千五百万磅ヲ募集シタリ尔後一千
七百九十三年ヨリ一千八百零二年マデ凡ク八ヶ年間即チ第一
ノ革命戦争ノ期限ニハ一億六千八百万磅ヲ募集シ又之ニ
次チ一千八百零三年ヨリ一千八百十四年ニ至ルマデ即チ佛國
ノ那波翁ト大戦争ノ期限ニハ二億零六百万磅ヲ募集シタ
リ故ニ投昏家ノ記載セレガ如キ比較ハ必ス廢棄サレザルヲ得

ガルナリ

是般内國債ノ申込ニ就テハ近世ノ佛國ト之ヲ比較スルト更ニ
適當ナリトス其然ル所以ハ他ナレ近世ノ佛國ニ於テハ封建改
体ニ依テ土地ヲ分割シテ細小ノ借有地ト為セシラシテ農夫ノ
之ヲ所有スレモノ其數極メテ多キニ至リ而シテ是ガノ農夫ハ
各ニ以テ許ノ貨幣ヲ貯蓄セザリシモノ無ケレバナリ是故ニ吾輩
ハ佛國ノ會計史ヨリ一ニ例ヲ引証スベシ即チ那波第三世
ハ魯國ト同戦スルガ為メニ一千八百五十四年七月九日ニ於テ
三千万磅ノ公債ヲ全國ノ人民ニ募リシガ同月三十日ニ至テ一
億四千六百万三千六百七十九磅ノ申込ミアリキ而シテ此金
高ノ内千零百三十五万五千五百三十八磅ハ巴里斯ニ於テノ申
込ニシテ四千四百七十四万八千四百一十一磅ハ諸郡縣ニ於テ
ノ申込ミナリ又此諸郡縣ニ於テ申込ミタル金高ノ内九百二十

七万六千八百零六磅ハ或ハ千磅或ハ之ヨリ以下ノ金高ヲ以テ
申込ミテ為レタルモノナリ此一箇條ハ現今ノ議論ニ於テ須要
ナルモノニアラス何如トナレバ九百二十七万六千八百零六磅
ノ金高ハ四百五十万以上ノ人口アリテ或ハ諺ニ言フ所ノ古キ
莫大^ス小ノ申込ハ其小舎ノ根或ハ其烟筒ノ孔中ニ貯蓄シタル
五^フランク銀ノ小ナル數額ヨリ之ヲ蒐集セルヲ得レバナリ然レ
氏蓋シ古今一國政府ノ公債釐金ニ應レタル最大ノ成力ハ即チ
佛蘭西カ日耳曼トノ戦争ニ依テ實ニ恐懼スベキ疲弊ニ陥入り
レ後一千八百七十一年及チ二年ニ於テ二十億万磅ト三十億万
磅ノ公債ヲ募集シ得タルニアリ此第一ノ釐金ハ其高八千万磅
ニシテ六月二十六日ニ募集ノ命令ヲ下セシガ忽チ翌二十七日
リ申込ミ始マリテ二十八日ノ夕ニハ仙國ノミニテ殆ト一億
六千万磅ノ金高ヲ申込ミタリ然レテ翌年七月二十六日ニハ一

億二千万磅ノ金高ヲ募集セタルニ同月ノ終リニ至ラザル前此
經高ハ十二回ニシテ申込マセタリ吾輩ハ爰ニ日本ノ内國公債
募集ノ條款ニ於テ失踏ノ一ハ當ニ五百圓百圓及七十五圓ノ証
券ノミヲ發行セシニ在リトノ一ヲ記載スルヲ得ベシ若シ此公
債ニ於テ補國ノ農夫ノ地位ニ相當スル人民ヨリ申込マルベキ
方法ナリレハハ金高僅カニ拾圓ノ如キ証券モ亦引請ラレタル
ナル可シ然レモ吾輩ハ大藏卿ガ此ノ如キ人民ノ種類ヲモ募集
ノ及フベキトヲ期望セシヤ否ヤヲ甚タ疑フ所ナリ又吾輩ハ全
ク大藏卿ハ一千二百五十圓ヲ募集スルトヲ得ベシト躬ヲ保
証シタリト信ス然レモ大藏卿ガ社會ノ上等ヨリ之ヲ得ル可ク
期望セシトノ一ハ稍ニ信スル能ハス若シ大藏卿ハ此ノ如ク想
像セシニアラザレバ則チ其謬誤ハ許容スベキモノナレバ此公
債ノ募集ハ人民ノ忠義ト其ノ政府ニ向テノ信憑トヲ試驗スル

モノト看做スハ其功ヲ奏マシナリト主張スルトハ論者ノ非
難ヲ惹起スヲ以テ右ノ如ク許容セラル可キニアラズ然レモ此類
ノ主張論ハ何程能ク其趣意ヲ示サント欲スルトモ寧ニ能ク世
人ノ許容スル所トナランヤ
吾輩ハ又此公債ノ募集ニ於テ大藏卿ガ信憑ヲ有スルト仮定ス
ルトナリ定メタル第二ノ主意ハ即チ金債ヲ以テ利子ヲ拂フベ
キ外國債ヲ増加ヲ避ク可キ懸慮ナリ而シテ第四ノ主意即チ大
藏卿ハ有益ナル公ケノ工業ヲ起ス為メ人民ガ現今紙幣ヲ信用
スル事ニ就キ已レテ利スベキ方策ナリ吾輩ハ此二箇ノ主意ヲ
最モ讚美スベキモノトシテ區別シ得ルナリ然レモ吾輩ハ此
目的ヲ達スルガ為メ外國ノ金債ヲ借用スルト更ニ良策ナル可
トト思考スルトニ於テハ吾輩ガ同業ナルガゼット新聞記者ト全
說ナリ如何トナレバ斯ノ如ク為スルハ第三ノ主意即チ紙幣ノ

此条の原文記者誤解ナランカ

價格ヲ騰貴スルノ多分其目的ヲ達シ得ラル可ク而シテ總体
通貨一億二千万円ノ價格ヲ騰貴スルノ例ハ百円ニ付テ六
円ノ割引ヲシテ一円半若クハ二円ノ割引ト為スガ如キハ現今
ノ處置ヨリ得ラル可キ利益ニ此スレバ遙カニ好結果ヲ得
ベキヲ以テナリ然レモ紙幣ニ於テノ作用ハ吾輩ガ看ルガ如ク
決シテ斯ノ如キ結果ヲ有セザリキ此公債募集ノ條款ニ於テ考
フレバ何ニ由テ斯ク謬誤ノ期望ヲ懷カレシヤラ看破スルノ困
難ナリト謂フベシ即チ此公債証書發行條例ノ第一條第一節ニ
ハ利子ハ二ヶ年ノ間拂渡スルベシト記載セリ故ニ不換紙幣
ヲ利附公債証書ニ更改スル事ハ之ヲ充分ナル處置ト謂フ可ク
カ而シテ政府ハ此公債ノ申込ミ未タ結了セザル前既ニ收受シ
タル通貨ヲ以テ蝦夷及々其他ノ煤炭坑ニ消費スルノ如ク其
其三十万円ハ之ヲ造船者ニ貸与レタリ是ヲ以テ已ニ過分ニ流

通セル紙幣高ハ毫モ減少セシトナレ故ニ為換市場ニ於テ一ノ
感動ヲモ生セザリシハ之ヲ敢テ怪シムニ足ラザルナリ此
處置ハ(拂渡ス可キ利子ノ金高ニ依テ向後政府ノ入費ヲ増加ス
ル)必然ナルト元金ノ部分ヲ拂戻スベキ時ニ方リテ新タニ紙
幣ノ發行アル可キニ依リ紙幣ノ尚ホ過分ニ増加スルヲ恐レテ
ルトヲ以テ(例年此項ニ於テ騰貴スベキ為換相場ヲ妨止スルノ
效果ヲ有セザリキ
此公債ノ償却スル所ノ行情ハ之ニ依テ起シタル工業ヨリ回復
スル利益ヲ使用如何ニ在リ吾輩ハ是等ノ要點ニ於テハ此公債
ノ布告ノ始メテ公達セヨレシ時其利益ノ一部ヲ礦山開採ノ事
業ニ用フルヲ異論シタル同業記者ニ必スシモ同意スル能ハ
ズライマン氏ハ蝦夷ノ地質學ニ就テ其最モ精密ナル報告ヲ結
論ニ於テ詠馮ノ三分ノ二ハ大不列顛ノ地中ニ含蓄スル文ケノ

煤炭ヲ會蓄シ而シテ此煤炭掘出ノ税一噸ニ付三十元ノ低價ニ
計美シテモ政府ニ於テハ三百億万円ノ歳入ヲ得ベシト言ヘリ
吾輩ハ同氏ノ計美ヲ疑フ可キノ理由ナレ而シテ(既ニ論セシ如
ク)日本人民ガ自己ノ勤勞ニ代エテ紙幣ヲ收受シ且現今紙幣ノ
割引相場ヨリモ其價格ノ低降マサルホド之ヲ信用スルノ向ハ
政府ニ於テハ新クナル工業ヲ起スヲ得ベク而シテ向後若シ
現今ノ事情ヨリモ切迫ニ及ンテ正金ヲ要スルハ之ヲ拒当トシ
テ外國ヨリ正金ヲ借用スルヲ得ベシ又京都ト大津トノ間ノ
鐵道モ目下須要ノ工業ナルヲ以テ現今募集セル公債ノ一部ヲ
之ニ放置シテ最モ許多ノ利益ヲ回收スルヲ得ベク然シテ此工
業ハ將來最モ高價ナル抵当ト成ルヘキヲ吾輩ハ敢テ前言セ
シトス日々新聞ニ披レバ若シ此鐵道ハ復道ニ造ラルハハ一
百十萬圓ノ入費ヲ要スト云ク又生糸及ヒ茶ヲ産出スル地方ヲ

經由シテ鐵道支線(珠ニ是等ハ既ニ測量ノ終リタル本線ニ漸々
連絡ヲ通シ向後物産運輸ノ便利ヲ謀ル可ク企圖サレタラ以
テ)ヲ建築スル為ニ又公債ノ一部ヲ放置スルハ右ノ產物ヲ船
積スヘキ諸港ニ運送スルノ入費ヲ殺減スルニ依リ速カニ其建
築費ヲ回收スルヲラシメ及ヒ生糸紡績所、木綿製造所、其他砂糖製造
所等ノ如キ必ス成立スベキ勸業ヲ保護シ之ヲ扶助金ヲ与フル
モ亦若シ之ヲ与フルノ方法其宜シキヲ得ル時ハ將來ニ利益
ヲ收受スルヲ得ベシ又吾輩ノ看官ハ日本ニ於テ石炭油製造
ノ進歩魚類ノ罐詰(是レハ從來日本人ノ全ク注意セザリシ事ナ
ルガ)現今最モ有益ノ職業ナリ(國産ナル忽布ノ耕殖其他之ニ類
似スル勸業モ亦理財ノ道ヲ勸励スルニ足ルモノト想像セラル
、)ヲラシメ蓋シ是等ノモノハ若シ外國債ヲ要スルハ之ヲ抵当ト
シテ直接ニ利益ヲ得ベキ價格ヲ有セザル可シ然レドモ何ニ限

ラス新タニ製造シタル輸出物ハ増加シタル輸入物ノ價ヲ償フ
ヲ以テ忽チ海関ノ収税ヲ増益シ而シテ海関ハ日本ノ如キ國ニ
寡モ好チ抵当ヲ与フルナリ

是故ニ(仮令大藏卿ノ期望ハ充分ニ達セラレズ紙幣ニ其價格ヲ
騰貴スルヲ得ス而シテ大藏卿ハ人民ノ總体ヨリ公債ノ申込ミ
ヲ為スザレト期望セシキ失望サレト雖モ)到底此處置ハ失敗
ヲ免カレタルト必然ナリ而シテ現今既ニ募集シタル元金ノ使
用其宜シキヲ得ル時ハ則チ想應ナル成功ヲ得テ容易ク充分ナ
ル勝利ニ變改セシムルトヲ得ベシ

